

代表者名	千葉 俊	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先	設立年月日	平成15年4月16日

【沿革及び県の出資理由】

魚などとの触れ合いを通じた学習の機会を提供し、県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、秋田県の観光振興を図ることを目的に県等の出資により設立された。

【出資者】（24年度当初）

(千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	51,000	51.0
男鹿市	1	31,000	31.0
民間	5	18,000	18.0
計	7	100,000	100.0

【事業】

①主たる業務

秋田県立男鹿水族館の管理運営

②事業実績

(千人)

事業名等	21年度	22年度	23年度
入館者数(有料)	228	213	233

③23年度事業概要及び24年度事業計画・目標

23年度は震災の影響を心配したがホッキョクグマメス入手、ペンギン6羽誕生、ナポレオンフィッシュと話題性のある展示や告知を行うことができた。また、太平洋側で安全が確保されていない為隣県からの家族客利用が多かった。24年度は秋田県魚「ハタハタ博物館」オープン。魚たちの生態、文化、漁業等を発信して食文化を含めた展示及び解説を行う。また、25年オープン予定の(仮)海獣舎の告知を計画的に行う。明るい期待度としては継続的なペンギンの繁殖、ホッキョクグマの繁殖が考えられる。

【組織】

①役員数 (H24. 7. 1現在)

(人)

	取締役	監査役
常勤	1	
内、県退職者		
内、県職員		
非常勤	4	1
内、県退職者		
内、県職員	1	
計	5	1
内、県関係者	1	

②職員数 (H24. 4. 1現在)

(人)

正職員	20	正職員平均年齢	正職員平均勤続年数
内、県退職者		28.5歳	4.9年
出向職員			
内、県職員			
臨時・嘱託	4	正職員平均年収	2,754千円
内、県退職者			
計	24		
内、県関係者			

役員報酬支給対象者数	2人
役員報酬支給対象者平均年齢	63歳
平均役員報酬額	4,680千円/年

【財務】

①損益状況 (23年度)

(千円・税抜)

	金額
経常収入 A	473,648
受託事業収入	108,397
水族館収入	187,604
自主事業収入	172,036
運用益収入	
その他	5,611
経常支出 B	458,408
人件費	124,020
その他	334,388
経常損益 C = A - B	15,240
経常外収入	19
経常外支出・諸税	6,540
当期損益	8,719

(千円)

県の損失補償額	県の債務保証額

②財務状況 (23年度末)

(千円、%)

	金額	構成比
流動資産	249,814	93.3
固定資産等	17,910	6.7
資産計	267,724	100.0
流動負債	62,109	23.2
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	62,109	23.2
資本金	100,000	37.4
剰余金	105,615	39.4
純資産計	205,615	76.8
負債・純資産計	267,724	100.0

(千円、%)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
	中退共加入		%

【県の財政支出】

(千円・税抜)

	21年度	22年度	23年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費	92,354	92,809	91,828	水族館を管理するにあたり人件費、広告宣伝費、生物購入費等を支出
貸付残高				

1 主な経営指標

項目		単位	21年度	22年度	23年度	21-22増減	22-23増減
健全性	自己資本比率	%	81.08	83.18	76.80	2.10	△ 6.38
	借入金依存率	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流動比率	%	504.88	565.10	402.22	60.22	△ 162.88
	経常収入額	千円	445,339	420,810	473,648	△ 24,529	52,838
収益性	剰余金（△欠損金）	千円	92,928	96,895	105,615	3,967	8,720
	経常利益率	%	3.59	1.20	3.22	△ 2.39	2.02
	総資本利益率	%	6.73	2.13	5.69	△ 4.60	3.56
効率性	総資本回転率		1.87	1.78	1.77	△ 0.09	△ 0.01
	職員1人当たり経常収入	千円	13,917	13,150	13,533	△ 767	383
	人件費比率	%	25.45	27.63	26.18	2.18	△ 1.45

2 経営目標の達成状況

経営目標			21年度	22年度	23年度	24年度
経営改善指標	当期利益（千円）	目標	2,599	2,210	500	3,000
		実績	9,777	3,967	8,719	
事業成果指標	売上高人件費率（%）	目標	28	29	31	29
		実績	26	28	26	
事業成果指標	入館者数（千人）	目標	243	223	210	225
		実績	228	213	233	
事業成果指標	売上高（千円）	目標	356,499	340,219	303,321	335,033
		実績	348,999	324,637	359,640	
顧客満足度指数	顧客満足度指数	目標	88	88	88	80
		実績	87	87	78	

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

今期の目標は「リピーターの確保」、優先順位を見極めた「節約」でした。震災の影響がどんな形で来るのか分からないので足元を確認しながらの営業であった。特に支出に関しては各職場協力のもと優先順位を決めての対策が功を奏したと考える。節電などでお客様の理解に助けられたことも一因である。次年度も環境が変わり不安要素があるが経費の抑止などを考慮し安定的な経営を目指し運営を行う。

＜顧客満足度調査の結果を受けて実施する取組＞

指数減は5段階中 上位3段階を2段階で精査した為。（項目 是非来たい。来たい。）
レストランの繁忙時営業時間延長および時間外フリースペースで開放。

4 総合評価（計算書類等の資料による評価）

I 概ね安定した経営内容	II 一層の努力を要する経営内容
<ul style="list-style-type: none"> 様々な企画が奏功し、また、東日本大震災後にレジャー施設が減少したため、有料来館者数は前年度の109%を記録し、経常収入は52百万円増加した。経常支出は、売上高の増加に伴う増加並びに修繕費の増加により、42百万円の増加となり、当期利益は4百万円増加した。 来館者数水準を持続するため、引き続き、魅力ある企画を提供することが望まれる。 	